

2025. 5. 2 じっくりと構える

最近の子供たちの遊びの中の姿・つぶやきがとても興味深いです。

色水を作った年中女児。

色水というよりは、ペットボトルに花卉を摘んで入れ、そこに水を入れて完成なので、花水？

それを教師に嬉しそうに見せに来て、ペットボトルを逆さにしてみます。

すると、花びらが反対の方にスーと浮いていきます。また反対にすると、花びらは移動します。

その姿を嬉しそうに見せてくれます。

その横で見ていた年中男児が、「水中エレベーターだ！」と興奮！

「ちょっと僕も作ってこよう！」

出来上がると、浮き上がりをした後、「先生、斜めにすると花が（ペットボトルに）くつつくんだよ！」

「こうやって（回しながら）振ると、花がグルグル回るんだ！」とさらに気付きを教えてくれました。

その横でダンゴムシのお家を作っている年中男児。ダンゴムシがたまたまひっくりかえっている様子を見て、「あ！足いっぱいある！」とつぶやきます。

「いっぱいって、何本あるのかな？」と教師がつぶやく、「えー、5本ぐらい？」と男の子。

「でも、僕足2本だよ！」と足を持ってひっくり返り、ダンゴムシの真似をします。

そして、またダンゴムシとの触れ合いを楽しんでいきます。

ここで、答えをさぐろうとまではいかないところが面白く、そして、自分の足と比較させながら考え、またダンゴムシの足も自分と同じかと思うところがまた素敵だと感じます。

一見みたら、何気ないつぶやき、何気ない姿かもしれませんが。

もっと科学的なことを伝えたり、正解をみんなで探っていったりすることも必要なのかもしれません。

しかし、この子供たちなりの気付き、発見、考えをもつことが大切なような気がします。

子供たちの思いをもとにいろいろ仕掛けていくことも大切だと思いますが、むりやり広げようとしなくてもいいのではとも思います。

発達段階や子供たちの興味・関心、遊びの流れ、先の見通しなどいろいろなことを考えつつも、子供たちなりの出会いを大切に、大人はじっくりと構え、子供たちの時間の流れを最大限に尊重していくことが、科学する心の芽を育むということにつながっていくようにも感じました。

そして、そのじっくりと構える姿勢こそが、子供たちが好きと出会い、その子自身のタイミングでそれぞれの世界のドアを開けるきっかけを支えることになるのかもしれません。

そのような園生活を子供たちと楽しんでいるといいなと思います。

